

# 人工種苗の放流効果調査 2 (出雲海域)

(栽培漁業事業化総合推進事業)

清川智之

## 1 研究目的

平成 10 年度に引き続き、放流したマダイ、ヒラメ人工種苗の水揚げ量、水揚げ金額を推定するための調査を、平成 11 年 4 月から 12 年 3 月にかけて行った。なお、本調査に係わる市場調査は、水産試験場鹿島浅海分場、松江水産事務所、水産振興課、水産振興協会が共同で行った。詳細は「平成 11 年度栽培漁業事業化総合推進事業マダイ、ヒラメ放流効果調査報告書」に報告した。

## 2 研究方法と結果

### (1) マダイ

#### 放流実施状況

笠浦沖で 9,777 尾、瀬崎沖で 27,200 尾、御津沖で 29,400 尾、魚瀬沖で 32,000 尾、小伊津・三津・坂浦・地合沖で合計 32,000 尾、大社沖で 19,943 尾、御碕沖で 34,940 尾が放流された。

#### 調査方法

恵曇漁協の沖底、大社町漁協の小底 1 種、釣り、刺網、美保関町漁協の小底 2 種、定置、刺網、および松江魚市場に出荷された出雲海域の漁獲物を対象に調査を行った。測定は尾叉長を計測するとともに、左右の鼻孔を観察した。鼻孔隔壁が認められる個体を鼻孔正常魚、鼻孔隔壁の欠損が認められる個体を鼻孔連結魚とした。

#### 水揚げ魚の年齢組成と放流魚の混獲状況

本海域における水揚げ魚の年齢組成は、小底 2 種では 1 歳魚が主体であったが、その他の漁法では 3、4 歳魚が主体であった。鼻孔連結魚の年齢組成を、放流時点における鼻孔連結魚の出現率で除することで放流魚の年齢組成を推定した。放流魚の混獲率は 3.3%であった。

#### 放流魚の推定水揚げ重量と金額

平成 11 年 4 月から 12 年 3 月にかけての出雲海域における放流魚の水揚げ重量は 4,208kg、水揚げ金額は 406 万円と推定された。

### (2) ヒラメ

#### 放流実施状況

笠浦沖で 3,090 尾、美保関沖で 2,300 尾、大芦沖で 9,100 尾、恵曇沖で 18,370 尾、十六島沖で 5,300 尾、大社沖で 46,220 尾が放流された。

#### 調査方法

恵曇漁協の沖底、平田市漁協の沖底、小底 1 種、定置網、大社町漁協の小底 1 種、釣り、美保関町漁協の小底 2 種、定置、および松江魚市場に出荷された出雲海域の漁獲物を対象に調査を行った。調査は全長を計測するとともに、無眼側の黒化状況を観察した。黒化が認められないものを無眼側色素正常魚、認められるものを無眼側黒化魚とした。

#### 放流魚の推定水揚げ重量と金額

無眼側黒化魚を放流魚と考え、平成 11 年 4 月から 12 年 3 月にかけての出雲海域における放流魚の水揚げ重量と水揚げ金額を推定したところ、それぞれ 2,995kg、422 万円となった。